

# インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.207

2019年10月25日

発行所 兵庫教育文化研究所  
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

## ジェンダー平等から見た道徳

ジェンダー平等教育部会

ジェンダー平等教育部会が、養父市の中学校で授業研究会をおこないました。「ベビーカー論争」（廣済堂あかつき【遵法精神・公德心】）の資料を使い、3年生の授業がすすめられました。この資料は、2017年に「神社の初詣にベビーカーを使わないでください」という発言が話題になったことに端を発しています。

授業は、家庭科保育の領域の関係でこども園を訪問した感想から始まりました。「子どもの相手は大変だった」との意見も聞かれ、子育ての大変さを感じていました。授業者がベビーカーを見せて、資料の範読をおこないました。



ベビーカーを巡って、母親からの発言から「社会が子育てに冷たい」「アメリカはウエルカムだ」「妊娠中だから、使わざるを得ない」「出かけたけど、出かけられない」といった思いを読み取りました。それに対して、見て見ぬ振りをする男性や反感を持つ人の行動について、なぜそのような態度になるのか、どのように変われば（行動、心、慣習）よいのか、の2点について班で討議をして発表しました。

続いて、全体で話し合いをしました。「邪魔になってもしょうがない」「母親の状況を理解する」「周囲こそ気をつかうべき」「関心を持ってもらうようにする」「育児をしたことがないから分からない」等の意見が出ました。「皆さん、自転車通学している時とかはどうですか？」という授業者の問いに、「自転車もベビーカーも一緒だ」と生徒たちは感じたようでした。「自分たちも周囲に配慮する行動をとらないと、迷惑だと思われる」と、自分を振り返る機会になりました。

事後の研究会では、資料は「子育ては母親だけに任せておけばよい」という考えがすり込まれるのではないかと意見も出ました。登場する母親はフルタイムで働いているとか、専業主婦であるとか、女性を分断した記述になっているという考えもありました。「公共交通機関を利用する場合、以前は必ず折りたたまないで乗車できなかったが、今では乗車できるようになった。世の中は変わりつつある」という経験談も話されました。『車イスにはどうだろうか』や『ベビーカーを使うことが迷惑なのか』といった形で話し合いもできたのではと、発問についても意見交換をおこないました。ジェンダー平等の視点に立っての資料の分析や、生徒の多様な意見を引き出す発問の工夫等の話し合いを通し、実りの多い研修をおこなうことができました。



ジェンダー平等教育部会では引き続き、「ジェンダーの視点を大切にした道徳」の実践にむけて研究をすすめていきます。

**（本授業の指導案は「組合員専用ページ」に掲載しています。ID、パスワードは各地域組合へお問い合わせください。）**